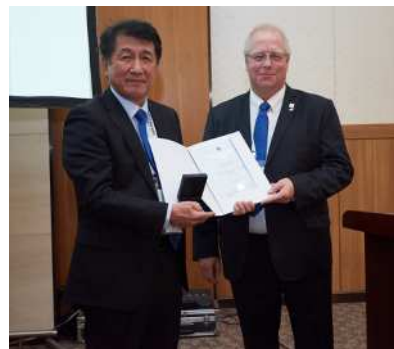


2018 年 IEC トーマス・エジソン賞を受賞して

IEC IECEE 副議長
 (一財)日本品質保証機構
 近藤繁幸

本年の IEC 大会は韓国釜山市で開かれ、10 月 22 日に開催された CAB 会議にて、Thomas A. Edison Award を拝受しました。私は、2013 年より IEC CAB 傘下にある 4 つの適合性評価システムの一つである IECEE の副議長として、また IECEE 内で基準文書の作成・改訂を担当する WG10 のコンビナートとして活動してきましたが、その活動成果により賞をいただけることとなりました。当日は、IEC 会長の James M. Shannon 氏、前 IEC 会長の野村氏ご同席の下で、CAB 議長 (IEC 副議長) の Shawn Paulsen 氏より、賞状、メダル、バッジを授与していただきました。



[左:近藤 IECEE 副議長、右:Paulsen CAB 議長]

私は、電気製品の適合性評価の業務に長く携わってきましたが、活発に国際的な活動をしている IECEE の中枢に参加させて頂くことができ、そこでの種々の活動の時間や世界中から参加している適合性評価専門家との出会いは得難いものでした。その上に、Thomas A. Edison Award という素晴らしい賞をいただけることは、とても光栄なことと思っています。

振り返って、6 年前に IECEE 副議長として指名していただいたのは、世界規模で活動する日本の製造者の皆様がいて、日本のみならずアジアで活発に活動し多くの CB 証明書を発行している日本の IECEE 登録認証機関 (NCB) の存在があったからだと思います。さらには、日本のメンバー機関 (MB) である JISC の皆様、梶屋委員長を始めとする IECEE 国内審議委員会の皆様から、今日まで厚いご支援を頂きました。皆様に心より感謝したいと思います。

IECEE は、各国 MB や登録された認証機関 (NCB)・試験機関 (CBTL) 等で構成されている組織で、国際的な試験結果相互活用スキームである CB 証明制度等を運営しています。CB 証明書は世界中で活用され、その発行数は年々増加してすでに年間 9 万件を超えております。

CB 証明制度は、「One standard, one test performed anywhere, accepted everywhere」であらわされるように、IEC 規格を適用した一回の試験の証明書で、どの地域・国の認証・認可も取得で

きることを目指しています。IECEE では、CB 証明書の取得希望者がどの国の NCB・CBTL でも利用できるように、世界中にある NCB（80 機関）、CBTL（515 機関）に対して、それらの機関の技術者による相互監査を行って、ISO/IEC17065 や ISO/IEC17025 の品質管理基準に対する評価と試験技術に関する評価のレベルを一定以上に保つように活動をしています。世界の主な認証機関や試験機関は IECEE の NCB・CBTL として登録されていますが、それらに対する実力評価の実践的な標準化を実行していると言えます。

また、IECEE は、昨今の技術革新・製品開発や国際的な製品流通に変化に合わせて、次世代製品に対する認証範囲拡大、新世代製品の特長にあわせた認証スキームの検討、新興国の IECEE への参加の働きかけ等も行っています。今後も、日本の製造者の方々や流通・販売の方々に、一層ご利用をしていただきたいと思います。

昨今は特に、加速する製品の技術革新を適合性評価の視点からも感じます。製品が世界とつながり、自ら考え、制御し、また移動するようになり、近い将来には、製品の能力は人の能力を超えていくと思います。しかし、これらを使うのはこれまでと変わらない人です。私たちは、これまでの言わぬ製品の安全性や性能という特徴を評価してきましたが、将来は考えることのできる製品への評価という新しい時代に入っていくのではないかと感じています。

私は、IECEE の副議長としての仕事は終わりますが、しばらくの間はこのような新時代の製品評価に関わっていきたいと思っています。

最後に、IECEE の活動においてご助力を頂いた国内外の皆様にもう一度感謝申し上げたいと思います。

以上